

# グラフと絵で見る食料・農業

—統計ダイジェスト—

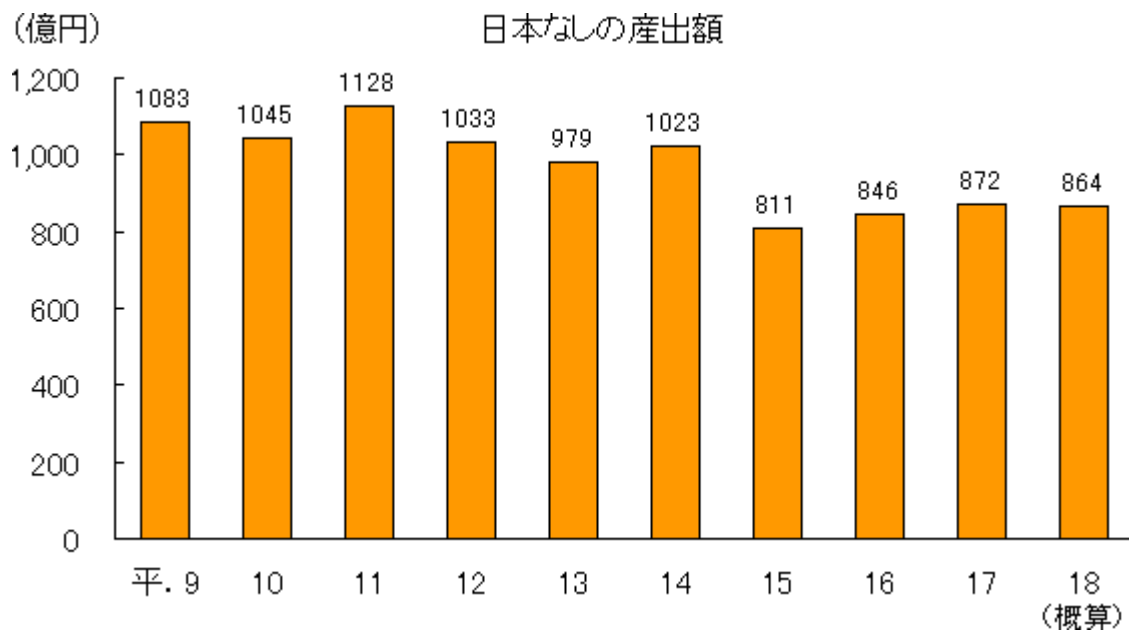
統計部

[トップページへ](#)

## 5 日本なし

- (1) [産出額](#)
- (2) [栽培実農家数](#)
- (3) [結果樹面積・収穫量の動向](#)
- (4) [卸売価格の動向](#)
- (5) [なし等の貿易量](#)

### (1) 産出額

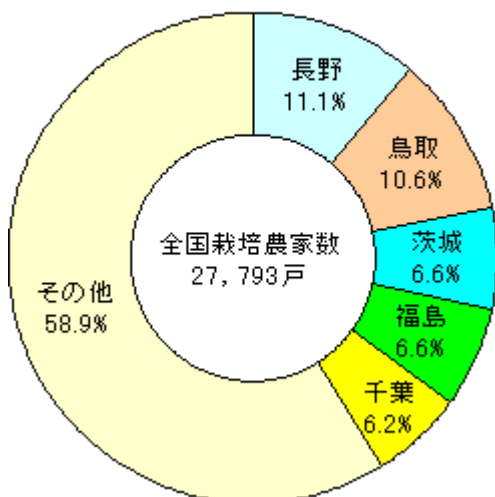


資料：農林水産省「平成18年農業産出額（都道府県、市町村別）」

**平成18年の日本なしの産出額（概算）は864億円で、前年に比べて8億円（0.9%）減少しています。**

### (2) 栽培実農家数

日本なしの栽培農家数



平成17年の日本なしの栽培実農家数は、2万8千戸で、長野県、鳥取県が多くなっています。

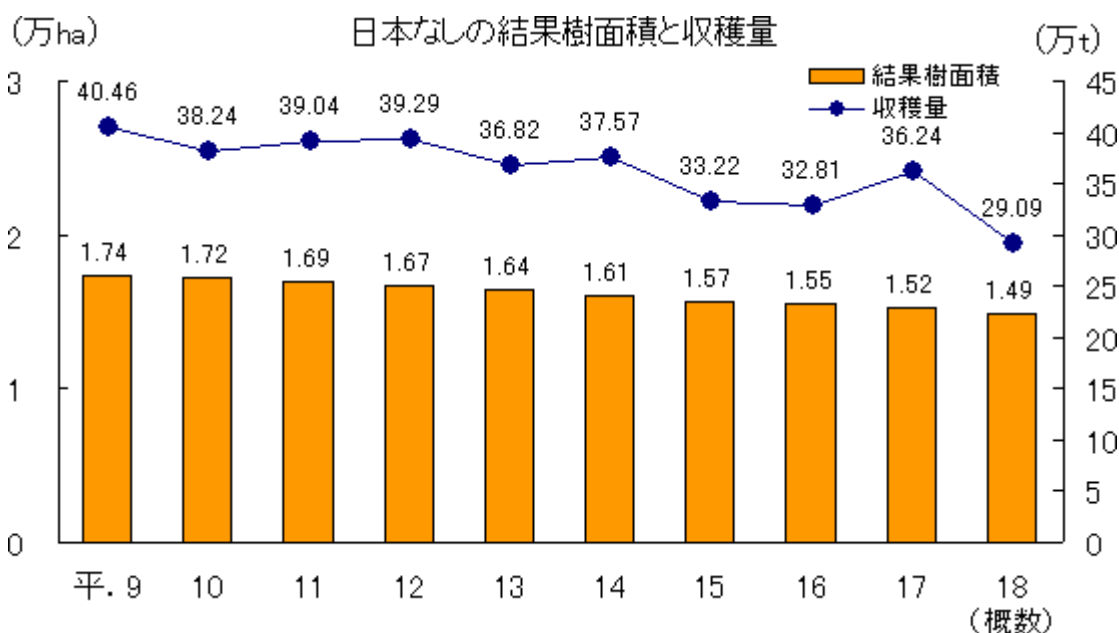
資料：農林水産省「2005年農林業センサス」

注1：農家数とは、販売目的で果実を栽培した農家数をいう。

2：露地栽培または施設栽培によりなしを栽培した農家数である。

[トップへ](#)

### (3) 結果樹面積・収穫量の動向



資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

日本なし収穫量上位5県（平成18年産）

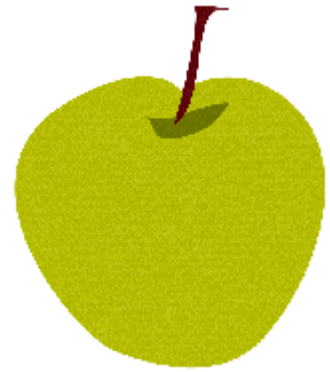
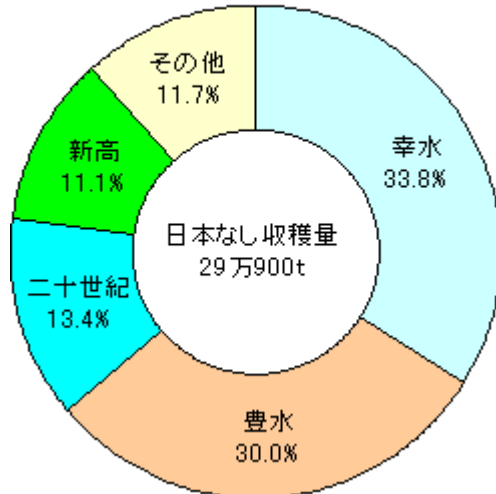
順位	都道府県	収穫量(t)
1	千葉	34 900
2	茨城	29 200
3	鳥取	23 400

平成18年産日本なしの結果樹面積は1万4,900ha、収穫量は29万900トンとなっています。上位5県で収穫量の約4割を占めています。

4	福島	22 300
5	長野	19 400

資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

日本なしの品種別収穫量割合

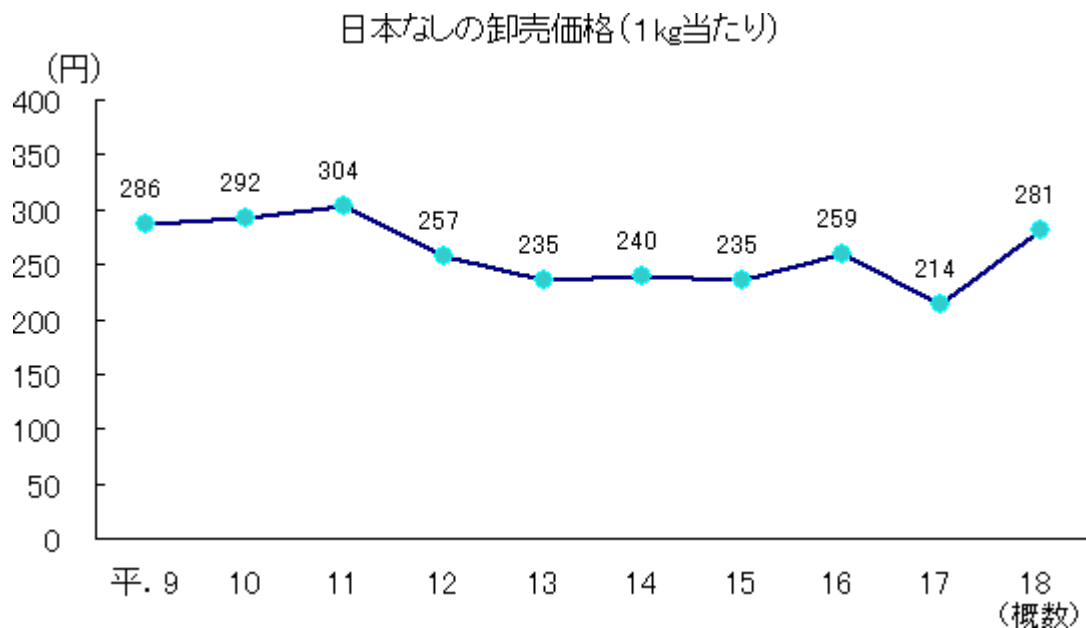


資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

また、収穫量を品種別にみると、幸水が9万8,300トンで全体の34%を占めており、次いで、豊水が8万7,300トン、二十世紀が3万9,000トンで、それぞれ30%、13%を占めています。

[トップへ](#)

#### (4) 卸売価格の動向



資料：農林水産省「平成18年青果物卸売市場調査結果の概要」

平成18年のなしの卸売価格（概数）は、1kg当たり281円で、前年に比べて67円（31.3%）上昇しています。

[トップへ](#)

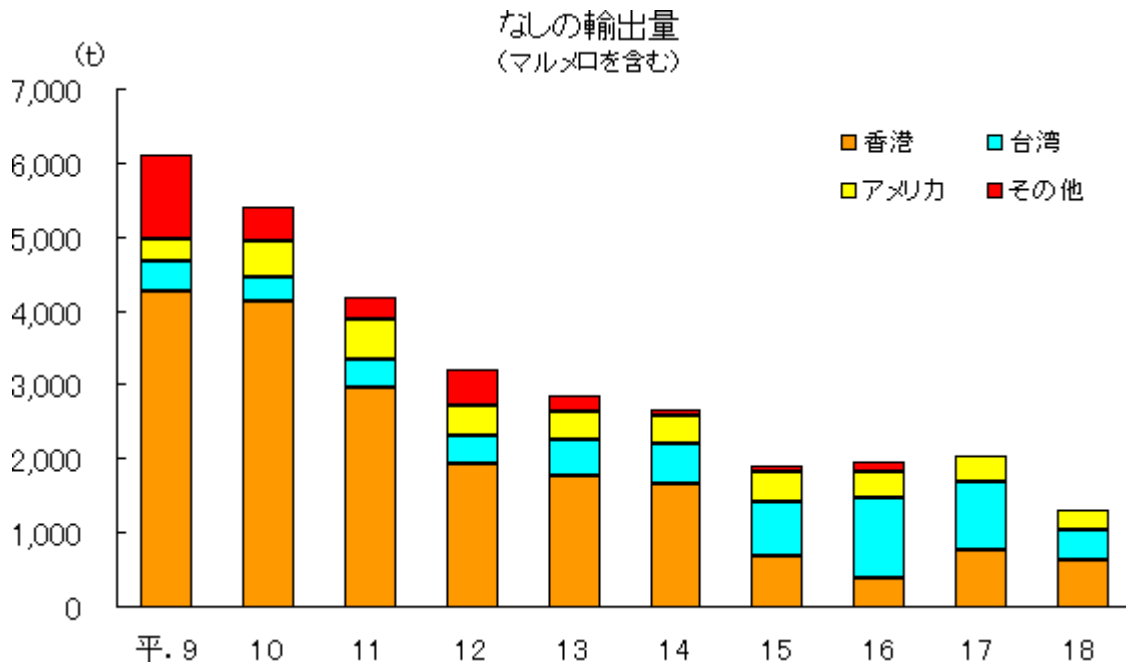


## 一口メモ…日本なしの由来

わが国における『なし』の栽培の記録は、『「なし」その他の草木を植えて五穀（米、麦などの穀類の総称）の助けとする』ことが、「日本書紀」に記されていることから、8世紀（奈良時代）には、全国的に栽培されていたと考えられています。

[トップへ](#)

### (5) なし等の貿易量

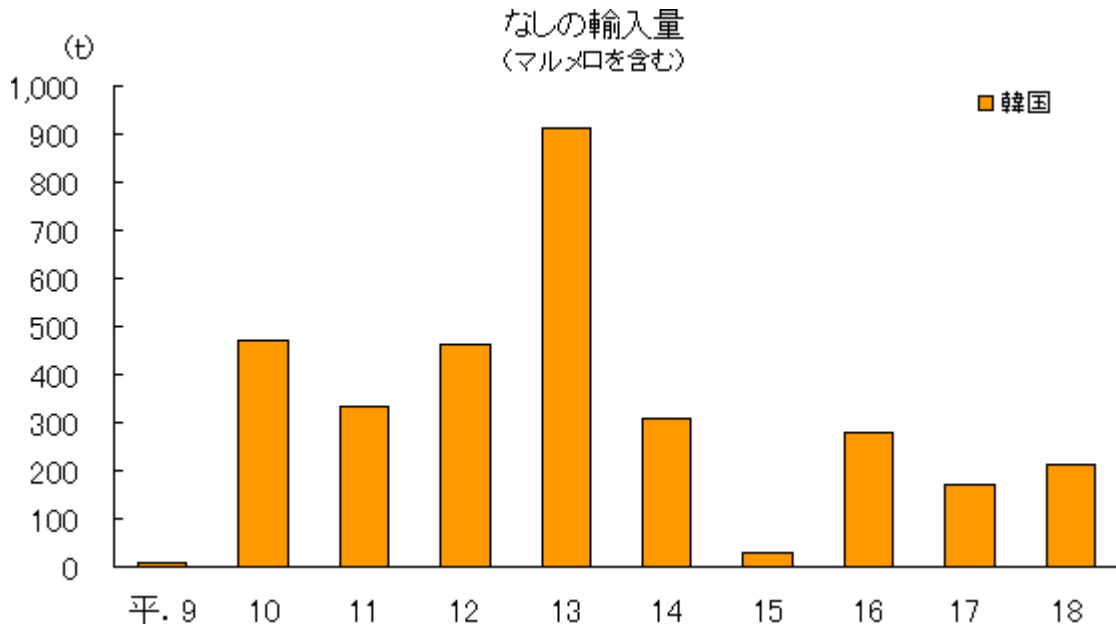


資料：財務省「貿易統計」

●マルメロとは、「西洋なし」のような形をしており、表面に細かい毛があります。果実は堅く、生のままでは食べられませんが、日持ちが良く非常に良い香りがあり、そのまま芳香剤として使用されたり、ゼリーや砂糖漬け、ジャムなどに利用されます。

平成18年のなし等の輸出量は1,356トンとなっています。

香港（46%）への輸出が最も多く、台湾（30%）やアメリカ（21%）にも輸出しています。



資料：財務省「貿易統計」

**平成18年のなし等の輸入量は212トンとなっています。  
なし等の輸入は、すべて韓国からのものです。**

[トップへ](#)



## 一口メモ…とっちが好み

「なし」には、食べたときにシャリシャリ感のある「日本なし（なし）」や「中国なし」とネットリ感のある「西洋なし（洋なし）」がありますが、日本で一般的に「なし」と呼ばれるのは「日本なし」で、最も多く栽培されています。

また、日本なしにはいろいろな品種があり、色や大きさもさまざまで、大きなものは1.5kgほどのものもありますが、一般的に二十世紀などに代表される「青なし系」、幸水などの「赤なし系」に分けられます。

青なしの代表である「二十世紀」は、明治20年後半に千葉県松戸市の松戸覚之助が、ゴミ捨て場で自然交配の苗木を発見し、なし園に移植したのが始まりで、十九世紀末の明治31年（1898年）、『これから迎える20世紀を代表するなしになれ』との願いから「二十世紀」と命名されたそうです。

また、赤なしの代表である「幸水」や、「豊水」などは、二十世紀よりも肉質が柔らかく、多汁で甘みが強いというえ、無袋栽培ができることから広く普及しました。

[トップへ](#)